

南アルプス市立八田小学校 後期自己評価書

令和3年1月8日(金)作成

学校長：名取 昭彦

記述者：半田 智徳

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』
「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ
2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校教育目標】

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

【めざす子ども像】

- 〔なかよく〕 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 〔かしこく〕 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 〔たくましく〕 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

【めざす学校像】

- (1) 仲よく助け合い、笑顔の集う学校
- (2) 学ぶ楽しさにあふれる学校
- (3) 整然とした、美しい学校
- (4) 安全で安心な居場所としての学校
- (5) ふるさと八田を誇れる学校

【めざす教師像】

- 子どもとのふれあいを大切にし、子どもとともに成長する教師
- 自己を高め、創意工夫して実践する教師
- 学ぶ姿勢をもち、互いに磨き合う教師
- 目標に向かって協働し合う教師
- 心身ともに健康で、児童、保護者、地域、同僚から信頼される教師

【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 緑のカーテン 自然や環境問題に関心をもつ子ども
- (5) 清流祭 音楽を通して心をひとつにし、互いの絆を深めようとする子ども

【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実を努める。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

I 全体評価（割合を出す際の処理の関係で、合計が100%にならない項があります。）

昨年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、自己評価の項目も中学校と同一のものとした。新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、徐々に平常を取り戻し、例年とは違う形になったが各種行事や学習もほぼ予定どおり実施することができた。このような中ではあるが年度当初から「ピンチをチャンスに」を合言葉に、コロナ対策を行いながら、工夫して日々の教育活動に取り組んできた。

1. 教職員の自己評価 27名回答（1名：4～5ポイントに相当）（資料1 資料1-1を参照）

(1) 後期の結果（資料1・1-2参照）

①A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目 9項目

「1：児童生徒は楽しく学校生活を送っていると思いますか」

「3：学校教育目標達成のために『授業づくり』『安全・安心な学校生活』『いじめのない学校』の教育活動に取り組んでいると思いますか」

「4：家庭に適切な連絡や情報提供を行っていますか」

「8：わかる授業に努めていますか」

「9：児童生徒が意欲的に取り組む授業づくりに努めていますか」

「11：八田小中学学習スタンダード（学習プロセス・学習ツール）を意識した授業づくりを進めていますか」

「13：児童生徒とのコミュニケーションをとることで、児童生徒理解に努めていますか」

「14：いじめなどのない楽しい学級づくりに努めていますか」

「15：保護者（家庭）とは密に情報交換し、指導に取り組んでいますか」

②A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目 4項目

「2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか」（85%）

「6：小中一貫校（分離型）として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っていると思いますか」（76%）

「7：ライフ・ワークバランスを意識した業務改善を行っていますか。」（88%）

「12：計画的な家庭学習の手立てをしていますか。」（87%）

③D（否定的評価）がついた項目 1項目

「2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか」

④前期・昨年度後期との比較

前期・昨年度後期と比較（資料1-2参照）すると、全体的な傾向として大きな違いはなく、ほぼ同じような結果となっている。ただ、「19：運動会等の特色ある学校行事」の項目は前期（80%）から90%までに回復し昨年度後期並みとなった。半日開催の運動会や変則的ではあるが学習発表会ができたことが大きなポイントになったのであろう。また、「6：小中の児童生徒・教職員の交流」「12：家庭学習の手立て」に関しては、ポイントが下がっている。

(2) 今後の課題（自由記述より抜粋）

- ・教師の問いに対して、なぜ・どうしてと疑問を持ち考えられている。また、その答えだけではなく、周りの児童に対してもわかりやすい説明ができるようになってきたと感じる。
- ・小中一貫に関して来年度はぜひ積極的に行いたい。
- ・ライフワークバランスは職業柄なかなか難しいように感じる。改善したいが・・・。
- ・会議等の開始時刻を守れるようになりたいです。
- ・児童の興味関心を引き出すような教材の準備等、多くの先生方の工夫が感じられました。
- ・家庭学習については、中学と連携しながら無理のない範囲で継続していきたい。
- ・あいさつは、1学期の頃よりだいぶできるようになってきましたが、あいさつされたら返すという児童が多いと感じます。自主的にあいさつができるように継続的に指導していくことが大切だと思います。

・先生方の協力もあり、2学期に自主学習ノートを校長室に見せに来てくれた児童が100人(148冊)いました。丁寧に書いている児童が多く、成果を感じました。3学期も担任の先生の励ましとご指導をお願いいたします。

2. 学校生活に関する児童アンケート 318名回答(約3名:1ポイントの相当)

(1) 後期の結果(資料2・2-2参照)

① A・B(肯定的評価)の合計が90%以上の項目

- 「1:学校が楽しいですか」(94%)
- 「2:学校の授業がわかりますか」(95%)
- 「5:宿題を忘れずにしてきますか」(93%)
- 「8:何でも話せる、仲のよい友だちがいますか」(95%)
- 「9:相手の気持ちを考えて、行動していますか」(95%)
- 「11:先生や友だちの話をしっかり聞いていますか」(98%)
- 「12:時間を守って行動していますか」(97%)
- 「13:学校のきまりを守っていますか」(95%)
- 「14:給食当番やそうじをしっかりとしていますか」(98%)
- 「16:外遊びや運動をしていますか」(91%)
- 「17:朝ごはんを食べて、登校していますか」(94%)

② A・B(肯定的評価)の合計が80%未満の項目(6項目)

- 「3:授業中、質問や意見を言いますか」(70%)
- 「4:背筋を伸ばし、良い姿勢で学習をしていますか」(74%)
- 「6:宿題のほかにも家庭学習(塾や家庭教師をのぞく)をしていますか」(62%)
- 「7:家で、本を読みますか(宿題をのぞく)」(64%)
- 「10:困ったことや心配なことがあったら、先生に言いますか」(77%)
- 「19:家の人に学校のようすを話していますか」(77%)

③ 前期・昨年度後期との比較

前期・昨年度後期と比較(資料2-2参照)すると、全体的な傾向として大きな違いはなく、ほぼ同じような結果となっている。肯定的評価の低い項目で、尚且つ下降傾向のものは「6:家庭学習」「7:読書」である。家庭学習については、保護者アンケートとほぼ同じ割合になっている。「10:先生への相談」については、若干ではあるが向上している。

3. 保護者アンケート 306名回答(約3名:1ポイントに相当)

(1) 後期の結果(資料3・3-2参照)

① A・B(肯定的評価)の合計が90%以上の項目

- 「1:学校は、お子さんにとって、楽しいところだと思いますか」(96%)
- 「4:お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか」(91%)
- 「7:お子さんの仲の良い友達を知っていますか」(95%)
- 「10:学校は、いじめの未然防止や子どもたちの間違った行動などに対して、指導していると思いますか」(91%)
- 「11:ご家庭では、お子さんのしつけに力を入れていますか」(93%)
- 「12:学校(学年・学級)だよりから教育活動の様子を知ることができますか」(94%)
- 「13:授業参観(フリー参観)や学校行事などは、子どもの様子をよく知る機会となっていますか」(90%)
- 「15:学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか」(90%)

② A・B(肯定的評価)の合計が80%未満の項目・2学期の取組課題

- 「5:お子さんは、宿題の他にも家庭学習(塾や家庭教師は、除く)をしていますか」(60%)

③携帯電話の項目

「お子さんに携帯電話を持たせていますか」 はい…26% (78人) いいえ…74% (227人)
「携帯電話を持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか」
はい…96% (75人) いいえ…4% (3人)

(2) 備考欄への記述 (抜粋)

- ・先生方も大変な中、諸々の気配りなどに大変感謝しております。
- ・今年はコロナのために授業参観もなく、学校での様子がいつもより見えにくかったです。それは仕方のないことですが、例えばホームページや学校のおたよりなどで少しでも見られたらよかったです。大変な中、先生方も多々ご苦労が多かったことと思います。学校があることはありがたいです。
- ・コロナ禍、修学旅行を実施していただき、感謝いたします。子ども達にとって、最高の思い出となりました。
- ・宿題に必要な教科書・ノートを学校におくことを認めてほしいです。置き勉につて、学校としての見解を統一していただき、適切な配慮をお願い致します。
- ・過度な感染症対策は、長い人生において大切な小学校の心身をはぐくむためにどうなのかと不安があります。コミュニケーションにも支障があると思います。学校家庭で子ども達の心身の成長をサポートできる環境づくりを今だからこそ協力し合うことができたらと思います。
- ・子ども達のことをよく見てくれていると思います。コロナ禍で大変な時期でもあります。授業時間の調整など一生懸命子ども達のために頑張ってくれることに感謝しています。
- ・コロナなので仕方ない部分は理解していますが、子どものことを第一に考えて行事や日常の一つ一つを大切にしていただけたらうれしいです。
- ・子どもの自主性を育てたい。物事の必要性を理解できれば育つのでは・・・。
- ・コロナ禍で今までの学校生活とはがらりと変わってしまいましたが、子どもなりに理解をして今の生活を受け入れているようです。その背景には、やはり友達存在が大きいようで、勉強ももちろん大切ですが、こんな時なので、仲間との絆を深めることも今まで以上に大切にしてほしいと思います。
- ・今後の休校の時にオンライン授業の設備をお願いします。
- ・いろいろな活動が制限される中、様々な工夫をしてくださり、ありがたく思っています。中学年としての自主的活動に向けての楽しい取り組みをしていただき、娘も楽しみながらクラスや学校をよくする活動に良さを学んでいるようです。
- ・分離型とはいえ、またコロナの関係もあるが小中の交流があまりなく、子どももいまいちわかっていない。教育活動に加え、各種行事でも交流があるといいなと思う。(例えば、運動会で中学の応援や吹奏楽)
- ・学習にタブレットを導入するという話を聞きました。長引くコロナ禍で必要なことだとは思いますが、ブルーライトの影響に賛否両論がありますので、そういった部分にも配慮しながら取り入れていただきたいと思います。
- ・いつも先生方や地域の方々に見守っていただいていると感じています。
- ・コロナ禍で、環境がガラッと変わってしまいがちながらも、やっぱり学校は楽しくて行くのを楽しみにしています。三密でなかなか難しいとはおもいますが、友達同士・クラスの仲間との絆を深めることも今まで以上に大切にしてほしいと思います。
- ・担任の先生はとてよく子ども達に寄り添ってくださいます。おかげで、楽しく学校に通えています。
- ・コロナ禍で、授業を工夫して下さったり、行事の精選して下さったり、子ども達のために考えてくださりありがたく思っています。

Ⅱまとめ(成果と課題)。

「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」とも前期同様肯定的評価の割合が高く、おおむね満足できる状況にあると言える。ただ、そのことに満足することなく、そこから見えてくる課題や改善点を探っていくことがより良い「八田小学校」を作り上げていくうえで大事なことだと考える。

1学期同様、新型コロナウイルス感染症の影響で、依然として児童にとっても保護者にとっても当然教職員にとっても様々な制約のなかでの学校生活となった。今回のことを前向きにとらえ、この危機を乗り切っていきたいと考えている。「教職員自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の結果をもとに改

善の糸口を見つけ出していきたい。

(1) 小中一貫教育について

「学校は、小中一貫校（分離型）教育を意識して教育活動に取り組んでいると思いますか。」に対して、肯定的評価は 82%→82%→86%（A：33% B：53%）と向上している。学校だよりなどの積極的な広報活動の効果もあり、「小中一貫教育」に関する保護者の認知度が上がってきている。ただ、教職員の自己評価においては、小中一貫に関わる項目における肯定的評価は 100%→81%→76%と下降傾向であり気になるところである。まだまだ、コロナ禍の状況で小中連携の機会が減っているなどマイナス要素がたくさんあることは否めないが、実践をとおして「強み」や「良さ」を感じ共有していく必要がある。何よりもまず、教職員自身がそれを実感することが大事だと考える。その上で、児童生徒・保護者に還元し、地域に広めていきたい。まず4つの「つなぐプロジェクト」を柱とし実践を積み重ねていく必要がある。

(2) 家庭学習（宿題・塾・家庭教師等を除く）について

家庭学習の肯定的評価の推移は、児童（62%→68%→62%）保護者（63%→60%→60%）となっている。「計画的な家庭学習の手立てをしていますか」の問いに対して教職員の肯定的評価の変遷は、95%→91%→87%となっている。また、2学期末までに自主学習ノートを1冊以上終えた児童（校長室に見せに行った）は100名（148冊）となっている。これは、およそ1/3の児童に相当する。児童生徒・保護者の60%台の肯定的評価はそれほど高いとは言えないかもしれないが、宿題以外の学習に取り組んでいる割合とするとまずまずなのかもしれない。ただ、教職員にとっては、家庭学習パワーアップ週間の取組等を見ていると、「手立ての工夫」の余地があると感じている。研究だよりで「家庭学習の重要性」を知らせたり、小中で連携して同時期に「パワーアップ週間」を設定したりする対応をすでに実施しているが、さらに家庭学習の大切さの理解を深め、取り組みを広めていきたい。

(3) あいさつについて

昨年度も、話題に上っている「あいさつ」について、前期は「児童生徒」と「教職員」のとらえ方の違いが話題に上り、後期は「保護者アンケート」に追加した。児童生徒「自分からあいさつをしていますか」の肯定的評価は 92%→90%→88%（A：54% B：34%）となっている。保護者のそれは、80%（A：35% B：45%）となっている。また、12月の「子ども見守り隊」代表者会議の中で、「あいさつしてくれるようになってきた」という意見をいただいた。

毎日繰り返し声をかけ、あいさつすることで改善されつつあるので、これからも継続して声掛けをしこちら側（大人）からあいさつしていきたい。児童会とタイアップした取組（3学期予定）や中学校・家庭・地域との連携も探りながら、今後も継続的に取り組んでいきたい。

(4) ICTについて

保護者アンケートの「お子さんは携帯を持っていますか」の問いに対して、「はい」が 22%→22%→26%と徐々に増えつつある。小学校でも、Line や TikTok、ゲーム機の通信機能に関わる様々な問題やトラブルが発生している。また、市連 P の市への要望事項の中にも「市全体としてスマホなどの利用について、統一基準を設けて欲しい」とある。さらに、GIGA スクールで児童生徒各自に一台のタブレットが3月には配布される予定である。そうになると、誰にとってもより身近な存在となってくる。そんな中で、「ブルーライト」の影響について心配する保護者の声も上がっている。

最先端のツールの良さと危険性を併せて学習し、上手に使いこなしていく力こそが、今の子ども達には求められている。児童生徒、保護者、教職員で力を合わせ八田地区にあった解決策・利用方法を見出していきたい。